

古高松コミュニティ協議会 広報誌

文化祭特集
(6～7面)



優美な演奏で文化祭開幕を飾った前夜祭、国際交流のタベ「劉飛 二胡コンサート」(屋外広場)

コミュニティ基盤の強化を



古高松コミュニティ協議会

会長 加藤直之

地域自らのまちづくり活動の拠点として建設され、高松市のコミュニティセンター一号館として開館をしては一年が過ぎました。

現在、高松市は、新・総合計画の中で、参加・協働で進めるコミュニティを軸としたまちづくりをはかるため、地域コミュニティの自立・活性化の施策を検討中ですが、私たちはすでに地域の問題、課題を自ら解決するよう「古高松地区コミュニティプラン」十九年度基本目標を、四つのまちづくり方針にかかげ「安全安心のまちづくり」の実現を目指しています。

また、施設の利用と環境についても、会議室の常設による各種団体の活動計画の推進、ホールの分割利用による生涯学習の活性化、コミュニティスペースの活用等についてもソーラー・パネルの実用開始や、空調設備の充実等利用・管理環境も整備されました。

さらに十九年度からは、地区コミュニティ協議会がセンターの指定管理者となり、従来の「管理委託」から「管理業務履行」をになうようになりました。

このように、地域コミュニティ活動は、少しずつ変革をとげつつありますが、これらを一つひとつ乗り越えて、コミュニティの基盤を強固なものにしたいと考えます。

東部運動公園25年完成を目指す

高松・まちづくりふれあいトーク

―市民と市長の対話集会開く―

大西秀人高松市長と地域住民が将来のまちづくりや市政全般について意見を交わす「高松・まちづくりふれあいトーク」市民と市長の対話集会が、八月十七日午後七時から古高松コミュニティセンター大ホールで開かれました。

この集会は市内二十五地区で開催されたもので、この日は、大西市長はじめ市幹部、地元からは自治会、各種団体代表はじめ住民七十余人が出席しました。

まず、大西市長が「合併後の中核都市としてのまちづくりは、住民主体で住民の意見を反映させながら効果的に推進したい。市民の意見を新しい総合計画に取り入れ、今後のまちづくりの指針にして、すべての市民が誇りを持てる高松市を目指したい」とあいさつ。

市側から新年度にスタートする新総合計画基本構想素案の概要について説明がありました。

意見交換では、①コミュニティセンターの駐輪・

「新ダムの完成は十年先で、当面、自己水源の確保にあわせて節水意識の向上に努めたい。香東川の伏流水の調査もしている。井戸は臨時的な対応として考えたい」

②東部運動公園の整備③節水対策として各地区に井戸掘削を④新川への汚水放流対策⑤高齢者の避難場所確保⑥屋島の観光振興

⑦市民病院の移転問題と災害時の患者受け入れなどについての発言がありました。

これに対し大西市長ら市側からそれぞれについて答弁がありました。

特に地域の関心の高い東部運動公園については「平

「元気なお年寄り、高齢者の住みやすいまちづくりを目標にしている。ハザードマップを作成して

いるので、これに基づき今一度安心できる対策を検討したい」

一、市東部地区、屋島の観光振興

「合併効果として屋島と源平の里を一体的に盛り上げていきたい。交通アクセスについては本年度中に基本計画を策定したい」

一、市民病院の移転問題と

災害時の患者受け入れ

「検討委で香川、塩江病院と併せて検討しており、香川病院と統合し移転の方向だが具体的には決まっていない。災害時については医師会と協定し課題を検討している。実情にあわせスムーズにいくようにしたい」

玄関前に時計塔

高松源平ライオンズクラブの寄贈によるソーラ式電波時計で、昨年十二月二十六日、引き渡し式が行われました。これに対してコミュニティ協議会より感謝状を贈りました。

高松・まちづくりふれあいトーク

～市民と市長の対話集会～



対話集会で発言する大西市長（大ホール）



定期総会

「安全安心のまちづくり」着々

本年度事業・役員決まる

平成十九年度総会開く

古高松地区コミュニティ協議会の平成十九年度定期総会は、五月十二日、古高松コミュニティセンター大ホールで開かれ、「安全安心のまちづくり」の実現に向けて決意を新たにしました。

各構成団体の代表者、来賓らが出席し、加藤直之会長を議長に議案を審議。①平成十八年度事業報告・決算報告②監査報告③平成十九年度事業計画案・予算案④コミュニティ協議会組織の一部変更についての各議案を、それぞれ満場一致で原案通り承認したあと、役員改選が行われた。平成十九年度事業計画、新役員は下記の通り。

平成十九年度事業計画

一、コミュニティプランに基づく事業の推進

①明日へのまちづくり

(企画・広報部会)

- ・ 広報誌の発行(年二回)
- ・ リーダー研修会の開催

(自主防災組織リーダー対象)

②健やかに育つふれあいのまちづくり(文化・生涯学習部会)

- ・ あいさつ運動、「歩き人」の



子ども達の安全を…毎月一回実施の見守り活動

増員、強化

- ・ 地域をあげて、子どもたちを見守る目的から、各小学校の月一回の集団下校時に見守り活動をする。

③支え合う安心なまちづくり

(健康・福祉部会)

- ・ ひとり暮らしの高齢者など要支援者の把握と見守り体制の充実

- ・ 福祉委員と住民の協力

- ・ 育児・児童の福祉活動の推進、子育てサロンの開催

④清潔で安全なまちづくり

(環境・安全部会)

- ・ 防犯危険力の点検と

- ・ 防犯マップの作成

- ・ 一斉清掃時のカーブミラーの点検整備の実施

二、部会の定例化

- ・ コミュニティ協議会の活動を推進するため、部会を定期的に開催する。開催については部会長が計画する。

三、コミュニティセンターの適正な管理運営

- ・ 平成十九年四月一日から各地区コミュニティ協議会が、コミュニティセンターの指定管理者となり、向こう三カ年の管理運営を行うこととなった。従来の「管理委託」から指定管理者による「管理代行」への変更になり、今後は施設の使用許可や料金徴収も指定管理者が直接行うようになります。利用者に対して迅速かつ柔軟な対応が可能になります。

〔平成十九年度役員〕

〔会長〕 加藤直之

〔副会長〕 佐々木ナミエ、加藤昭

〔理事〕 村井浩治、上枝基一、内海重雄

〔監事〕 加藤豊、川田優、辻文栄

〔事務局〕 香西繁治、長町隆司、松尾崇広

〔管理運営委員〕 楠井広志、中條文雄

〔委員長〕 藤本豊、坂下巨入

〔副委員長〕 北條正行(同副センター長、伊井智子(同主任)

〔委員長〕 加藤直之

〔副委員長〕 加藤直之

〔委員〕 村井浩治、上枝基一、高松武、加藤豊、樽谷和夫

〔職員選考委員会〕 中條文雄、長町隆司

〔委員長〕 加藤直之

〔委員〕 内海重雄、佐々木ナミエ、村井浩治、上枝基一

ドラえもん

古高松コミュニティセンター

センター長 氏部 幸 男

私、三月末で高松市役所を定年退職し、四月からコミュニティセンターでお世話になっております。これからは、今までの経験を少しでも生かして、地域に貢献できればと想い、毎日頑張っております。

古高松コミュニティ協議会は、平成十五年に結成され、平成十七年には「安全安心のまちづくり」のコミュニティプランを策定し、それぞれ部会に、地区内諸団体の多くの皆様が参画して、地域自ら

のまちづくりに取り組んでおられます。私としても、今後、コミュニティ協議会が諸団体の一層の連帯と協働のもと、円滑に活動が展開されるよう協力させていただきます。よろしくお願いいたします。センター長、氏部 幸 男

生き生きと集い、学びふれあい

美しいハーモニー聴衆魅了
盛大に「タぐれコンサートINみなみ」



すばらしい演奏と歌声を楽しんだタぐれコンサート

夏の夕暮れに楽しい音楽を：古高松南コミュニティセンター恒例の「タぐれコンサートINみなみ」が、八月二十六日（土）午後六時から同センター二階ホールで開かれました。フルートアンサンブルによる「千の風になって」や、オカリナアンサンブルによる「となりのトトロ」、木管アンサンブルによる愛のテーマ「ニューシネマパラダイス」などすばらしい演奏が次々披露され、聴衆を魅了しました。最後に古高松南小学校合唱部の四、六年生が、太田陽子先生の指揮で「世界がひとつになるまで」などを合唱、美しいハーモニーに盛んな拍手が送られました。

会場には納涼を兼ねて地域の人たちが集まり、すばらしい演奏と歌声に楽しい一時を過ごしていました。

長寿祝い地区敬老会

長寿おめでとう：「敬老の日」の九月十七日、古高松小学校体育館で平成十九年度地区敬老会が開かれました。

午前九時から岡内副市長はじめ来賓を迎えて式典が行われた後、アトラクションがありました。保育園、幼稚園児、小学校児童や地

域同好会の人たちの出演で、合唱や演奏、舞踊などを次々に披露し、楽しい一時を過ごしました。古高松地区の七十五歳以上の高齢者は一九七五人。このうち女性が一二一四人、男性は七六一人となっています。

高齢者体力づくりモデル地区に指定 生涯学習振興基金助成も

—地区老人クラブ連合会—

古高松地区老人クラブ連合会（藤本 豊会長、八四〇人）の古高松コミュニティセンター高齢者教室では、「健康づくり、仲間づくり、生きがい求めて」をテーマに、講話や実技を通じて学習しています。

本年度は、健康講話などの受講形態から一歩踏み込み、体力づくりを中心に高齢者向けスポーツや体力測定を通じて、自分の体力を知ってもらう計画です。県の高齢者体力づくりモデル地区にも指定され、九月二十八日に第一回体力測定会を開きました。

また、香川銀行高齢者生涯学習振興基金の本年度助成金を受け、ピンボーリング一セット、輪投げ四台を購入。十月五日、センターホールでお披露目しました。



ピンボーリング(手前)、輪投げを披露する老人クラブ会員

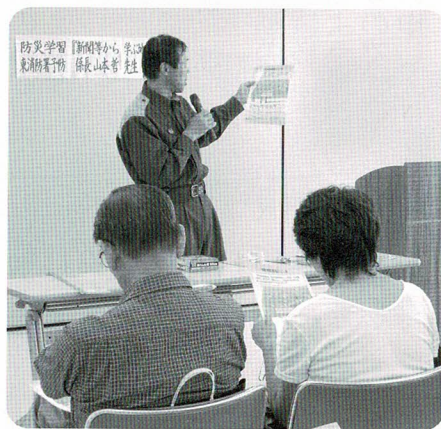
備えあれば憂いなし…

地区自主防災会で訓練

自主防災会リーダーの意識向上、活動技術の習熟を図るための防災訓練が、十月八日の高松町地区を皮切りに春日(十月二十一日)、新田(十一月四日)地区で開かれました。

各地区の自主防災会リーダーらが参加し、高松東消防署員から消火注水訓練や担架などによる搬送、人工呼吸など救護救急訓練を受けました。本番さながらの訓練に真剣な表情でした。

また古高松センターでは、九月七日防災学習を開催し写真山本高松東消防署予防係長から地震対策について受講しました。南センターでは、九月二十日、防災講演会を開き、乃田県防災局防災指導監が「一日ごろから災害に備えましょう」のテーマで講演しました。

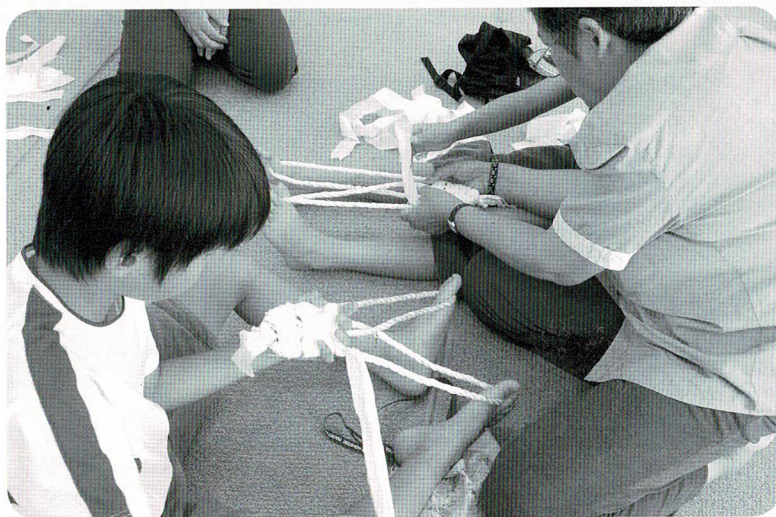


楽しくセンター講座・同好会活動

私たち「古高松スポーツダンス同好会」は、コミュニティセンターのホールをお借りして第一、第四水曜日の午後一時半から二時間練習をしております。

以前の公民館時代を含めて二十余年の歴史ある同好会ですが、健康増進、会員の融和、技術の向上をモットーに今日もよい汗を流しました。

ご多分に漏れず高齢進行で、会員数の維持に頭を痛めるところですが、明るく広々としたホールで、



布ぞうり作り

いらなくなった布を利用したぞうり作り。地区内の方が指導。

同好会あれこれ

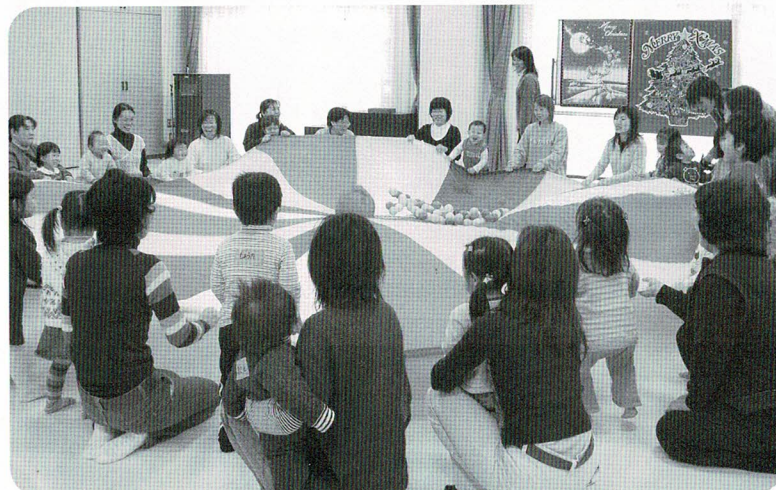
「古高松スポーツダンス同好会」

上 枝 欣 一

音楽に合わせて体を動かすことは、単に肉体的健康のみならずストレス発散にもなり、心身両面の健康増進になります。

コミュニティセンターは、エントランスからロビーを経てホールに至るまで明るくゆとりがあり、ホールでのびのびと練習出来ることに大いに感謝しております。

ただ、利用者側として欲を言えば、駐車場の狭さに不便を感じるものが最大の難点です。



あいあい教室・ひまわり教室

お母さんと就園前の子どもとの楽しい教室。手遊びや親子体操を通じて親子のふれあいと参加者相互の親睦も。

自販機で地域の最新ニュース



古高松コミュニティセンター(高松町)内に設置している「災害対応型自販機」の電光掲示板に9月から時事通信社のニュースのほか、地域情報の掲示を始めました。情報表示の希望があればセンターまでご一報ください。

この自販機は、大地震などでライフラインが被害を受けた場合、自治体の要請で清涼飲料水を無償で住民に提供できるシステム。電光掲示板は、災害時には避難場所、災害情報などがリアルタイムで確認できます。



絵手紙教室

季節の折々をはがき絵で表現します。

学習・活動の成果 地域へ発信

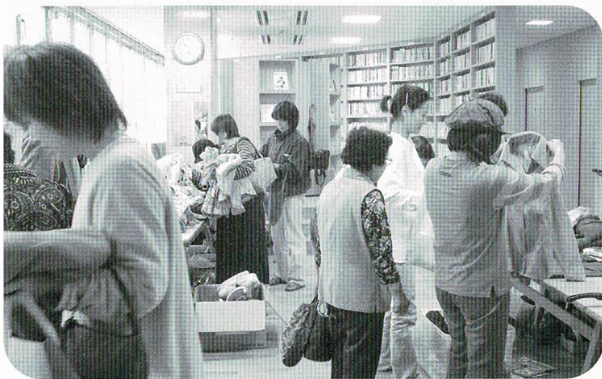
作品展



力作に見入る参観者(古高松南センター)



くつろぎスペースとクラシックBGMのはがき絵・絵画コーナー(古高松センター)

掘り出し物は…
初めて開催したフリーマーケット(古高松センター)

バザー・フリーマーケット



健康に良いお菓子の試食コーナー(古高松センター)

”文化・芸術の秋”を飾って恒例の地区文化祭が、十月二十五日(金)夕の前後祭で開幕、二十八日まで古高松、古高松南両コミュニティセンターで開かれ、多数の来場者で賑わいました。

この文化祭は、コミュニティセンターで学習や各種活動に励んでいるサークルが、一年間の成果を公開するとともに、地域の人々の交流と親睦を深めて心豊かなふるさとを目指すのが目標です。

両会場では、作品展はじめ舞踊カラオケなどの学習発表会、健康講演会、健康コーナーや、毎回人気のバザーも開店。今年はフリーマーケットが初登場して賑わいました。また、前夜祭も初の試みで「国際交流の夕べ」として中国江西省出身の二胡奏者・劉飛(りゅうひ)さんによる二胡コンサートがあり、「千の風にとつて」「浜千鳥」など心にしみる音色が聴衆を魅了していました。

文化祭特集

古高松・古高松南コミュニティセンター

お茶席

お点前を学ぶ、
ちびっ子たち
(古高松南センター)

温かさが伝わるうどん・ちらしずし・おせんざいの味(古高松センター)



心豊かな「ふるさと」目指して

講演会 コミュニティ化



「後期高齢者について」語る朝日俊彦先生(古高松センター)

会場に広がる交流、親睦の輪

学習発表会 文化



かわいいバレリーナの熱演(古高松センター)



三崎めぐみ先生の「歌って笑ってリラックス」
(古高松南センター)

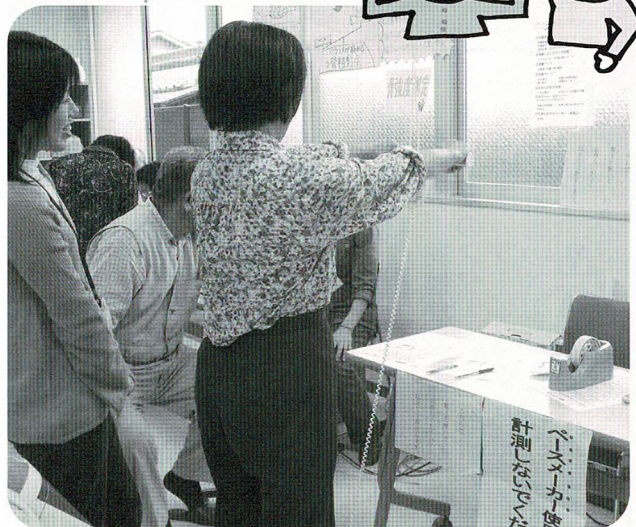


参観者も一緒になって…3B体操(古高松南センター)

健康コーナー

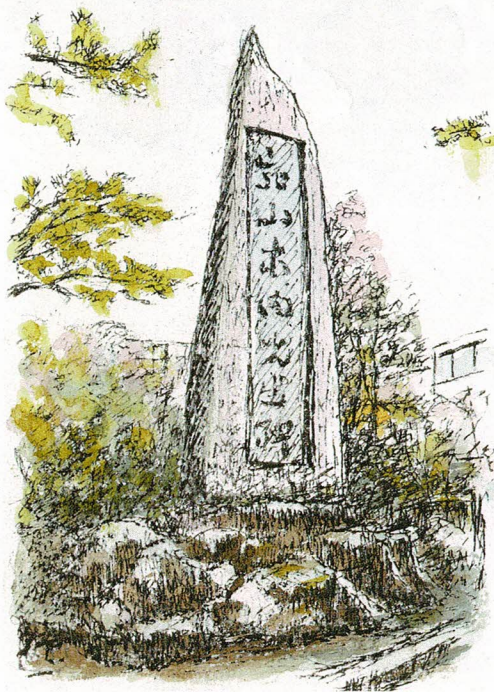


赤ちゃんコーナーでの手作りおもちゃ作り(古高松センター)



正しい測定で健康チェック(古高松センター)





(絵・清水 純一)

ふるさと点描

「龍山木内先生碑」
(高松町、古高松小学校校庭)

今年、創立百年を迎えた古高松小学校。多くの先輩らによつて受け継がれた歴史と伝統の校史を、じつと温かく見守っているのがこの顕彰碑でしょう。校庭の西北隅、通門に隣接し、古木に囲まれるようにして建っています。高さ5.58m、幅1.3m、厚さは55cmあり、昭和八年(一九三三)十一月二十六日、除幕式が行われました。碑の文字は書道家で第三代古高松小学校長の宮宇地養造氏の筆によるものです。

龍山は、郷土で活躍した勤王家、さらに寺子屋を開設して子弟の教育にも力を入れたことで知られています。文化八年(一八一二)円座町の小橋道寧の次男として生まれた。天性明敏で進取の気に富んでいたといわれ、十代で高松藩儒に経史、書経などを学んだ。二十一歳の時(天保二年)、高松町の木内茂邦家に入り、農事の合間に多くの著述を残しました。

幕末、二十五歳の時に書かれた「撃攘録」は尊王の義気を鼓吹して、頼山陽の「日本外史」に並ぶとさえいわれた。また、親交のあった志士、同士の通信に基づき幕末の真相を写した「龍山漫録」(十五冊)は、十四年を要した労作で維新の貴重な史料といわれています。慶応三年十一月死去、享年五十七歳。墓は高松町地部谷にあります。



夜空を彩りフィナーレを飾る花火

たがふふれあい交流 旧高松城まつり賑わう

古高松地区ふれあい交流事業の「旧(ふる)高松城まつり」が、七月二十一日(土)午後四時から高松町の菱の池公園で賑やかに開かれました。特に今回は、古高松小学校創立百周年を祝い、開、閉会時に紅白の餅投げを行いました。

舞台では古高松、古高松南両コミュニティセンターの同好会メンバーが出演し、大正琴、舞踊、民謡、カラオケなど日頃の活動成果を披露したほか、ふるさと学習クイズ、のど自慢大会、かわいい園児のエイサー太鼓、勇壮なふれあい太鼓、ジャズ演奏など多彩なプログラムが繰り広げられました。

また、各種団体による夜店やバザーも開店、浴衣がけの家族連れらがどっと繰り出し大賑わいしました。そして百数十発の打ち上げ花火が夜空を彩りフィナーレを飾りました。



ちびっ子らに大人気のバザーコーナー

★コミュニティ 協力金にご協力を★

古高松地区コミュニティ協議会は、本年度から自主的管理運営の一環としてコミュニティセンターを利用している同好会から一人当たり年間五百円のコミュニティ協力金を徴収しています。ご協力をお願いします。

編集後記

センター開館から一年余り、指定管理制度のスタートで、地域に合った質の高いサービス提供も、加藤会長の巻頭言に注目。文化祭を特集で再現。ふるさとの心意気が伝わってきます。(編)